

日本学術会議

政治学委員会比較政治分科会（第24期・第3回）議事要旨

開催日時 2018年6月23日（土）11時30分～13時00分

開催場所 東北大学 川内キャンパス 文科系総合講義棟 104 会議室

出席者 眞柄秀子、河田潤一、小川有美、大串和雄、新川敏光、加藤淳子、磯崎典世、羽場久美子、藤井篤の9名。

議事概要

1. 比較政治分科会の今期活動について

（1）眞柄分科会委員長より、2019年1月に開催を予定されていた国際シンポジウム「学術研究におけるジェンダー」はスピーカーのオハイオ州立大学教授の都合により中止されることが報告された。

（2）本日、日本比較政治学会研究大会の自由企画1『比較政治学』の教育：大学で何をいかに教えるか』が日本学術会議との共同で行われることが確認された。

（3）眞柄分科会委員長より、「社会的投資政策の多様性——新福祉成長ミックスの可能性と課題」というテーマでの「報告」を作成する小委員会の委員候補者全員が、去る5月末の幹事会で承認されたことが報告された。次回の比較政治分科会会議の直後に小委員会の大沢真知子委員（日本女子大学教授）を参考人として招致し、分科会としてこのテーマについてのレクチャーを受けることが承認された。また小委員会による当該テーマでのシンポジウムを2019年3月に前倒しで開催することが承認された。

（4）次年度におけるその他のシンポジウムや学協会との共同企画の開催については、次回分科会会議までに提案があればメール上で行うことが承認された。

2. 人文社会科学振興に向けた業績評価のあり方について

望ましい人文社会科学分野での学問的業績評価の方針について審議し、様々な意見が出た。人文社会科学系では業績評価が理系とは根本的に異なることを理系分野の研究者たちに説明する必要がある。学問分野による業績評価の多様性を認めるべきであり、業績の点数や掲載ジャーナルのインパクト・ファクターなどの外形的指標のみに依存すべきでない。理系では学問業績は査読学術ジャーナルに発表された論文のみが評価の対象になるが、人文社会

科学系では研究発表の媒体は学術ジャーナルもあれば図書もあり、これは欧米諸国でも同じである。日本の人文社会科学系においても査読学術ジャーナルが増える傾向にあり、図書の刊行でも、大学出版会による出版の場合には一種の査読制が作用しており、これを制度化していくことが可能である。学問の社会的影響や社会との接点についても業績評価の対象にすべきである、等々。

3. 次回分科会開催日程について

次回分科会会議は学術会議総会に合わせて10月4日(木)午後で開催されることになった。

事前配布資料

「人文・社会科学研究評価のあり方について——日本学術会議の成果をふまえて——」

(2018.04.03.日本学術会議第一部会 報告：三成美保)